第５学年　国語科学習指導案

１　単元名　　「俳句の世界を楽しもう」

２　単元の目標

○　季語の役割を理解し，季語を踏まえて場面の様子を思い浮かべたり作者の心情を想像したりすることができる。

○　俳句の鑑賞を通してとらえた季語の役割を踏まえ，季語を効果的に用いて俳句を創作することができる。

３　単元設定の趣旨

(1)　単元について

日本の伝統的な短詩型である俳句は，五音七音の組み合わせのリズムで構成され，短い言葉の中にさまざまな季節の情景や，詠み人の思いが込められている。本単元では俳句の鑑賞・創作に欠かせない季語に着目させていく。季語とは，俳句で「四季それぞれの季節感を表すために句に読み込む語」をいう。日本の国土の条件が生み出した様々な変化に対応して創り出されており作者の心情をも反映している言葉である。そこで，児童には，「季語は単に季節を表す言葉ではなく，季語には日本独特の繊細な季節感や，作者の心情が込められていること」を鑑賞を通して実感を伴って気付かせていきたいと考えている。具体的には，作者が自分の心情を表現するためにふさわしい季語を選んでいることが５年生の児童にも分かる句を選び，上記のことを納得して受け止めさせたいと考えている。

その上で，まず自分が表現したいことや自分の表現を明らかにさせ，その心情を表現するためにふさわしい季語を選んでいくという手順で，自分の俳句作りをさせていこうと考えている。

(2)　児童について

児童は標語やスローガン作りなどを通して，五七五の形式やリズムには親しんでいる。しかし，それらと俳句の違いについては理解していない。俳句も五七五形式の短詩であるという意識しかない。また，知っている俳句があるか聞いたところ，「古池や　かわずとびこむ　水の音」「やせがえる　負けるな一茶　これにあり」など，限られた句だけがあがっただけだった。季語について尋ねると，俳句には季節を表す言葉を入れるきまりがあることを知っている児童は数名であった。

4　単元の指導計画

時	学習活動	指導のポイント
1	・七五調・五七調のリズムがある詩や歌，俳句などを情景を思い浮かべたりリズムを感じ取ったり,音読をしたり暗唱したりする。 ・「季語一覧」を読み，「季語」の多さや季語としてあがっている言葉の豊かさを知る。	・七五調のリズムの仕組みに目を向けさせる。 ・季語を集めたプリント「季語一覧」から，日本人のもつ繊細で豊かな季節感に気付かせる。
2 本時	・俳句の基礎知識を知る。 ・「季語」が表す様子や作者の心情を理解する。 ・表したい自分の状況や心情を考え，それにふさわしい「季語」を選ぶ。	・川柳や短歌と俳句を比較しながら，それらとの違いや俳句の特性に気付かせていく。 ・季語が作者の季節感や状況，心情を表す役割があること,季語にはそれらが込められていることを，具体的な俳句を基に気付かせていく。 ・季語の豊かさや季語がもっているイメージを感じ取らせる。 ・季語の役割を踏まえ，俳句で表現したい自分の気持ちや状況を，「季語」に置き換えさせる。
3	・第２時の最後に選んだ季語を使って，俳句を作る。 ・季語とそれ以外の部分が重なっていないか，リズムは合っているかを考え，お互いにアドバイスし合い，推敲して俳句を完成させる。	・自分が表現したいことを「季語」を生かして，五七五の形式で創作させる。 ・季語が効果的に使われているか，リズムはよいかをアドバイスさせたり，俳句からどんな情景や心情が伝わってくるかを交流させたりする。

5　本時の指導

(1) 本時のねらい

文脈における他の言葉とのつながりや，季語そのもののイメージを大切にして，季語を踏まえて作者の心情を豊かに想像することができる。

(2) 本時の構想

①　川柳と比較させ，俳句の特徴である「季語」の存在に気付かせる。

はじめに，次の４枚の短冊を用意する。俳句が２句と川柳が２句である。選んだ

句は，５年生の児童が情景や心情を想像しやすいもの，季語から作者の心情を想像しやすいものとした。

妹の　満点答案　五月晴れ（俳句）

名月を　取ってくれろと　泣く子かな（俳句）小林一茶

風呂あがり　ぱっと手を見る　しわだらけ（川柳）

散髪代　俺は千円　犬は一万下流の夫（川柳）※１

上記の４句を順番をバラバラにして黒板上に並べる。そして「二つに仲間分けしなさい。」と働き掛ける。あえて観点は示さない。児童に仲間分けをさせることで，じっくりと４句を眺め，その差異に着目させていく。様々なことに気付いていくであろうが，四つの俳句・川柳を対比・類比する活動を通して，「俳句には季節を表す言葉がある」という特徴に気付かせてく。

②　「季語」が表す様子や作者の心情を理解する。

児童と同年代の子どもが作った俳句を提示し，季語はどれかを問う。そして，ワークシートにその季語から想像される作者の心情を「喜怒哀楽」のいずれかで表出させる。

四つのマークを用い「喜怒哀楽」と作者の心情の種類を限定することで，児童に作者の心情を考えやすくさせる効果をねらう。また，児童同士の考えが分かれた時には，話し合いの論点を四つ以内にすることができ立場を明確にさせることができる。

本時で児童に提示する俳句は三句。気象に関する季語を含む句を選んだ。季語が作者の心情を表していることに気付かせるのに，気象に関する季語は児童にとってとらえやすいと考えたからである。選んだ三句は以下の通りである。

ア　妹の満点答案五月晴れ

季語「五月晴れ」……五月晴れのように晴れ晴れとした，嬉しい気持ち。

イ　先生が病院へ行く冬の雲

季語「冬の雲」……寒々とした鉛色の空いっぱいの雲のように，何か不安で心配する気持ち

ウ　雪とけて村いっぱいの子どもかな

季語「雪とけて」……雪がとけ，春になった晴れやかな喜びの気持ち

③　俳句で表したい自分の様子や心情を考え，それを「季語」で表す。

表したい自分の様子や心情を考え，「季語」がもつイメージを考え，自分の様子や心情にふさわしい季語を選ばせる。

(3)　本時の展開

時	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
10	**次の四つの句を二つのグループに仲間分けしてワークシートに書きましょう。また，分けた理由も書きましょう。** **① 散髪代　俺は千円　犬は一万**（下流の夫） **② 妹の満点答案　五月晴れ** **③ 名月を　取ってくれろと　泣く子かな** **④ 風呂あがり　ぱっと手を見る　しわだらけ** C：私は，①④と②③に分けました。理由は①と④は季節を表す言葉がなくて②と③は季節を表す言葉があるからです。 C：私は，①②④と③に分けました。なぜなら，①②④は現代の俳句で，③は古い感じがするからです。 C：私も①②④と③に分けました。なぜなら，③には，「かな」という言葉遣いが入っているから古い感じがしました。	・ワークシートに記入させる。 ○　同じ 17 文字でも季語の有無で俳句と川柳に分けられることを押さえる。
10	先の四句から，**妹の　満点答案　五月晴れ**を提示する。 指示：この句の季語「五月晴れ」を確認し，ワークシートに記入させる。 **この季語から，どんな様子や気持ちが伝わってきますか。喜怒哀楽の四つのいずれかを決めるとしたらどれでしょう。一つに〇をつけてワークシートに書きましょう。理由も書きましょう。** C：ぼくは，「喜」だと思います。妹が満点をとって喜んでいる様子を表していると思うからです。 C：ぼくは，「怒」だと思います。妹ばかり点がよくて，自分は取れない悔しさが感じられるからです。	○　現代の小学生が作った俳句であることを伝える。 ○　ペアで発表させた後，全体で発表する。
10	**先生が　病院へ行く　冬の雲** **この俳句の季語は？** C：冬の雲	

5	**この季語から，作者のどんな様子や気持ちが分かりますか，喜怒哀楽のどれかに〇をつけてワークシートに書きましょう。理由も書きましょう。** C：「怒」だと思います。冬は寒くてあまりいい気分じゃない上に，先生が病院へ行って自習になってしまって怒っていると思うからです。 C：私は「哀」だと思います。冬の寒い日に，先生の具合が悪くなって病院へ行かなければならないなんて，作者の心配な気持ちを表していると思うからです。	○　二つの俳句から，季語は作者の気持ちを表現するものであることを確認し，板書する。
10	**江戸時代の与謝蕪村という人が作った俳句です。** **雪とけて　村いっぱいの　子どもかな**（与謝蕪村） **この季語から，作者のどんな気持ちが分かりますか，喜怒哀楽のどれだと思うかを話しましょう。** C：季語は「雪とけて」で，気持ちは「楽」だと思います。寒い冬が終わって雪がとけて春になってきたことがうれしいから「楽」だと思います。 C：ぼくも季語は「雪とけて」だと思います。春になって子どもたちがまたたくさん外へ出てきてうれしいから，「楽」だと思います。	○　昔の人も今と同じように，喜怒哀楽を季語で表現していたことをおさえる。
	自分が俳句で表したい気持ちや状況を考え，それを季語で表してみましょう。また，その季語の表す自分の気持ちや様子もワークシートに書きましょう。 小グループで互いに発表し合う。 その後，全体で共有し合う。 C：「春の朝」　何かすがすがしくやる気に満ちている気持ち C：「金魚すくい」お祭りみたいにわくわくして楽しい気持ち C：「五月晴れ」友達とけんかをしていてもやもやしていたけれど，話し合って仲直りして，もやもやとした気持ちがなくなって，明るくすっきりした気持ち	○　例を示し，心の中の喜怒哀楽を季語に例える具体を示す。 ○　季語は，配付済みのミニ歳時記の中から選ばせる。

(4)　評価

評価場面 ・方法	評価Ａ	評価Ｂ
小グループ及び全体における発表場面（観察及びワークシート記述による評価）	ミニ歳時記の中から季語を一つ選び，その季語を表そうとする自分の気持ちを，10 文字程度で詳述することができる。	ミニ歳時記の中から季語を一つ選び，その季語で表そうとする自分の気持ちを自分なりに書くことができる。

※１　第 19 回サラリーマン川柳第 10 位　第一生命